

令和7年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	6	議席 番号	1	氏名	近 藤 千 鶴 議員	1 / 1
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
1	将来を見据えた市立 病院整備と医療体制の 在り方について	<p>まず、初めに長年にわたり富士宮市立病院に医師を派遣していただいている浜松医科大学の皆様へ深く感謝申し上げます。地域医療を支えてくださるその御尽力がなければ、富士宮市の医療はここまで維持できなかつたと痛感している。一方で、市立病院の建て替えが断念された今、総合病院が一つしかない本市の医療体制には、市民の間には大きな不安が広がっている。また、看護師・医師不足が深刻化する中で、このままの体制で、安全で希望ある医療体制を維持できるか疑問が残る。今必要なのは近視眼的な判断ではなく、未来志向の中長期的なビジョンを持ち、新築建て替えという選択肢を今すぐ断念するのではなく、段階的整備や別拠点での集約型医療体制の構想なども含めた多角的な検討を行うべきと考え以下伺う。</p> <p>(1) 新築建て替えを断念した理由と、それに代わる改修による整備の内容・費用の見通しについて、改めて伺う。</p> <p>(2) 今後、医療技術や整備が進化する中で、現有施設の構造で対応しきれない分野や機能制約はあるのか。段階的建て替えなど柔軟な整備案は検討しないのか。</p> <p>(3) 看護師の退職状況とその要因分析、並びに人材確保に向けた短期・中長期の具体的な取組はあるか。</p> <p>(4) 今後、病院を市単独で維持することが難しくなることも想定される中で、地方独立行政法人化や、民間医療機関との連携、役割分担、医師会との協働による集約的医療モデルなど、新たな仕組みの検討はするのか。</p> <p>(5) 未来は永久に続く観点から、今、将来世代に向けた投資を怠ることは、市民の命と健康に関わる大きな過ちとなりかねない。こうした視点を持った医療戦略の立案・実行を担える生え抜きの専門人材を起用する考えはないか。</p> <p>(6) 富士市立中央病院の建て替えについて。</p> <p>① 新しい富士市立中央病院が開設された場合、本市の市民の受診動向や救急搬送の流れにどう影響すると見込んでいるか。</p> <p>② 医療資源が一方に集中し、富士宮市内の医療提供体制が空洞化する懸念はないか。</p> <p>③ 新しい富士市立中央病院と連携して行ってほしいと思うが、広域的な協議や連携の場は設けられているのか。</p>				市 長 副 市 長 教 育 長 病 院 長 関 係 部 長
2	閉塞感を生み出す市 営運営とその打開策に ついて（郷土史博物館 建設を巡って）	<p>(1) 近年、物価高騰や急速な人口減の影響が顕著であり、令和6年の本市の出生数はわずか542人ととどまった。このままでは、将来の富士宮市を支える若い世代が著しく不足することが懸念される。一方では、世界情勢に目を向けると、再び戦争の危機が高まり、市民の日常は不安と隣り合わせの状況にある。そうした中、命に関わる市立病院の建て替えが断念され、市民文化会館の改修工事も大幅に工期が遅れ、工事費だけでも53億円と大幅に増額した。このような中で新しい博物館の建設だけ進めようという現況は、市民にとって大きな不公平感と閉塞感につながっている。この状況をどう受け止め、どう補い、どう未来を描こうとしているのか。市長の所見を伺う。</p>				市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長